

## 令和2年7月豪雨から1年にあたり

被災された皆様と全国の皆様へ

昨年7月3日から31日にかけて、熊本県を中心に九州、中部地方での集中豪雨が発災致しました。改めて、水害で亡くなられた皆様とその遺族の方に対し深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

令和2年7月豪雨はコロナ禍での災害であったため、これまでとは異なり県内のみのボランティア募集等、制限の多い災害対応となりました。日本青年会議所と致しましても、現地の状況を把握しつつ、支援金をはじめ物資及び資機材の供給等による支援を展開して参りました。

このような動きは、本年1月18日に行いました日本青年会議所と全国社会福祉協議会との災害協定締結にもつながっていると感じています。

異常気象によって災害が頻発し、激甚化してきている昨今、平時からの備えは必要です。我々の所属する企業やコミュニティにおいて、BCP（事業継続計画）の整備等によりレジリエンス（回復力・復元力）を高めることは、命や暮らしを守ることにもつながります。

7月豪雨災害から1年にあたり、今一度災害を振り返り、ハザードマップを確認する等の個人でできることから、自治体の定める国土強靱化地域計画の推進や検証まで、私たち青年会議所がなすべき行動につなげる機会と致します。

これからも、社会に希望をもたらす変革の起点として、防災減災に寄与する運動を、共に力強く進めて参ります。

2021年7月吉日

公益社団法人 日本青年会議所

第70代会頭 野並 晃